

「おれんちのうし」イベントの感想

おれんちのうしの読み聞かせについて、事前に内容を確認して、7歳のフランス育ちの息子には難しい言葉使い、また動物の殺生についても、親の私が息子にうまく説明できるか分からず少し心配でした。

読み聞かせの動画の視聴・前後に語彙の説明をし、息子なりに本の内容を理解した上で、どう思ったかを聞いてみたところ、『牛が可愛かった。牛が可哀想だと思った』との感想でした。『牛と仲良くなったけど、お父さんとの約束通り、牛は連れていかれちゃったね。でもそのおかげで男の子は学校に行けて幸せになったんだよ。牛にとてもありがたうと思ってるよ。』と伝え、理解したものの納得出来ないところもあるようでした。

今後もこの絵本をきっかけに動物や人に対しての愛情や命についてゆっくり話していければと思いました。

また、ちぎり絵のアトリエも、手作業が好きな息子はもちろん、私も黙々と一緒に作業し、二人で楽しみました。こういう色の付け方もあるんだねと喜んでいました。ありがとうございました。

7歳男子

まずぼくは、本の絵がとても美しいと思いました。内容は、牛のために毎日お世話をしたり、牛が一人になって心配をして学校までついてきたりと感動する場面もあるし、逆に、牛が売られてすごく悲しくなる時もあるし、色々な気持ちになるのでいい話だと思いました。はにわさんが作った本を、世界中の子供達を読んだら、牛を育てたいという子供達が増えて、その牛が死ぬまで一緒にいようと思えばいいなと思う。そうすれば牛が食べられなくなるから、飼う牛が増えていいなと思いました。

10歳男子

親である私も、おれんちのうしを通して、改めて感じさせられたことがありました。

まずは、共存のこと。様々な生命があつての私たち。私たちが毎日頂くものは、動物に限らず、植物にも全て生命があります。その貴重なものを毎日頂いて私たちは生きていくことができます。昨今の時間がないない！忙しい！などと言って、携帯を片手にささっと食事するのではなく、一口一口味わうことを意識したいと感じたのはもちろんのこと、更には、人間だけのものではない、“全ての生命のための地球”を守る事が、私たちに課せられた任務だと再確認できた気がします。

例えば小さなエコ活動でも、「ちりも積もれば山となる」精神で、積極的に取り組んでいきたいと思えます。

そして、資源の大切さ。

インタビュー映像のエピソードにもありました、フリーペーパーを使ったちぎり絵。実際に今回やってみました。

お金を費やして立派な折り紙を買うよりも、ぐっと味のあるちぎり絵になったことに正直驚きました。

物が溢れかえっている現代社会において、身の回りにあるもので、発想の転換を駆使して楽しい遊びを発見する！

そんなことも子供たちに教えていけたらなあと思いました。

丑年である年の始まりに、親子でとてもいい機会を頂き、大変感謝しております。

はにわさん、本当にありがとうございました。

イベント前に4歳の娘が話の内容を理解し、イベントに参加できるかどうかを確かめるためにYoutubeで「おれんちのうし」を親子で視聴しました。素敵な挿絵のちぎり絵と補足説明で大まかな話の内容を理解すると、娘は牛が連れて行かれてしまってかわいそうだ、と涙を流して悲しんでいました。娘をあやしなから、生命の尊さ、食への感謝の気持ち、「いただきます」「ごちそうさま」の意味を改めてきちんと話し合う機会をいただきました。

イベント当日は著者のはにわさんが読み聞かせてくれるけれど、イベントに参加できるかどうかを娘に問うと、娘は心を決めたような顔つきで、もう一度「おれんちのうし」を聞いてみたい、と答えました。

はにわさんによる読み聞かせ動画が始まると、泣くこともなく落ち着いて視聴し、その後の牛に関するクイズやちぎり絵のアトリエも楽しそうに参加しておりました。

食物を大事にし、食物の生産に関わる人々に感謝する心を学ぶ、素晴らしいきっかけをいただいたことに大変感謝しております。どうもありがとうございました。

4歳女子

この度は、素敵なイベントをどうもありがとうございました。作者の方に絵本を読んでいただき、絵本の創作過程をインタビューで伺えるというのは滅多に無い、とても贅沢な体験でした。はにわさんがお父様に勧められた「自分絵本プロジェクト」ということで、親子で作りに上げられた絵本、とても素敵だなと思いました。

イベントに先立ち、私一人で読み聞かせの動画を拝見しました。4歳の息子には、このお話がどの程度理解できるか分かりませんが、イベント当日に見せてみると、「男の子が牛に日向ぼっこさせたのが、かわいかった」そして「最後にね、牛が売られていくのが悲しかった」と言いました。心を込めて世話した大好きな牛と別れるのは辛いし、牛も別れたくなかったというのが、なんとなく分かったようです。この本「大好きだった」とも言っていました。

8歳の息子は、大事に育てた牛と最後に別れるのは悲しい、けれども別れなければ学校に行けなかった、という複雑な感情を理解できたようでした。加えて、自分が育てている都会の環境とはまた違う場所で育った男の子の話で、興味深かったようです。男の子が牛の世話をしている様子を身を乗り出して見たり、「絵がとってもきれい。景色があるし。」と言っていました。

読み聞かせの後のちぎり絵アトリエでは、8歳の息子は「すごい楽しい」と言いながら作業し、4歳の息子は「見て見て、上手に出来たでしょう？」と得意顔でした。私も手伝いながら無心になって作業をし、頭がスッキリ、心も落ち着いて、ちぎり絵ってすごい、と思いました。どうもありがとうございました。

8歳男子、4歳男子

イベントの前日、娘とちぎり絵の下絵を選びながら、「明日は『おれんちのうし』という絵本を作家ご本人が読んでくださるんだよ」と娘に伝えましたが、物語を新鮮に受け止めて欲しかったので、あえて物語の内容には触れませんでした。

絵を描くのが大好きな娘は、絵本の原画を手、「どうやったらこんなに可愛く子牛の絵が描けるのかなあ。一目で子牛だって分かるよね。」と嬉しそうに話していましたが、私は、将来獣医をしながら自然保護・動物愛護団体に働きたいと言っている彼女が、牛とのお別れという悲しい結末が待っているこのお話にどのように反応するのか、内心好奇心と不安の入り混じった複雑な気持ちでした。

当日読み聞かせ動画が始まると、父親が少年に子牛をあげる冒頭のシーンで、さっそく娘が不安そうに私の顔をちらっと見て、「牛売られちゃうの？」と小声で聞いてきたので少しはらはらしましたが、娘は最後まで真剣にお話に聞き入っていました。お話が終わると、目にうっすら涙を浮かべながらも、自分なりにお話の内容を消化しようとしている様子でした。

イベント終了後に、「お話どうだった？」と聞くと、堰を切ったように、「子牛は、男の子と遊んだり、一緒にいることがすごく嬉しかったのに、売られちゃうなんて、きっと裏切られたと思って悲しかったと思う。子牛が可哀想だった。」と言いました。牛が可哀想とは絶対に言うだろうとは予想していたものの、牛が「裏切られた」と感じたのではないかという発想は私にはなかったもので、その感性を新鮮に感じるとともに、動物好きの娘らしい表現だと思いました。

その後も、少年の気持ちを一緒に考えてみたり、食べるということは命をいただくこと、食べ物や資源を無駄にしない生活、学校へ行けるということは当たり前ではないということなど、親子で改めて一緒に考えることができました。

ちぎり絵もとても楽しく、娘は勉強そっちのけ、私は家事そっちのけで没頭してしまいました。

このような密度の濃い時間を与えてくださったこの絵本と、作家のはにわさんに心から感謝申し上げます。

8歳女子

この度は動画に原画、さらにインタビューと素晴らしいコンテンツをたくさんいただきまして本当にありがとうございました。

3歳の息子には少し内容が難しいかな?と思いながらも日本の風景や身近な動物である牛を楽しんでもらいたいという思いで一緒に動画を見ました。

息子の反応は「あ、牛さんだね。牛の赤ちゃん?」「草があるね。」「トラック?」と内容理解というよりもその世界に出てくる動物や風景がとても気になったようです。

ちぎり絵はここは草かな?これは何かな?道かな?ここは何色にしようかな?と私が主導して一緒に作業をしました。スティックのりを限界まで出してベタベタに紙に塗りたいくったり、全くちぎらない紙を貼ろうとしたりと、案の定きちんと作業するのは難しかったのですが、また成長したら一緒に絵本を読んで、ちぎり絵も楽しんでみたいと思います。その時またどのような反応をするか成長が楽しみです。

3歳男子

今回はお忙しい中、わざわざ私たちのために時間を割いて動画を作成して頂き、本当にありがとうございました。

たまたま今年の干支と言うだけあって、子供達は牛に対してグッと親近感が湧いた事と思います。

お話は確かに悲しい部分もあります、こう言った現実はいつか大きくなったら子供達も直面する事もあるかと思えます。
でも牛側からすると主人公の夢と一緒に叶えられて本望だと思ってるかも知れませんか。

ちぎり絵の優しい、繊細な情景が悲しくとも優しい愛に満ちたお話として皆の心に残っていくだろうと思います。

おれんちのうし、のお陰で楽しませて頂き、勉強させて頂き、お腹いっぱいイベントとなりました事に心から感謝しています。

今後の活動も楽しみにしています。
別の作品上で是非また、はにわさんにお会いできるのが楽しみです。

7歳男子、5歳女子

自分が感動した絵本を皆さんにご紹介できて良かったとイベントに参加して思いました。

感動の絵本が、想っていた以上に奥深い、沢山のメッセージがある絵本だと、あずき文庫のメンバー様の反応をみて改めて感じております。
少年と子牛の絆の物語だけでなく、自分が生きるために、色んな生き物が犠牲になってるということ深く気づかせてもらいました。また、人間は一人だけでは生きていけない、親、周りの色んな方、サポートもあり勉学に励み一人の人間として生きていくことができていると周りに目を向ける機会にもなりました。

ウシのクイズは、私自身も知らないことも多く、娘と一緒に学びを深め、これを機会に干支の順番を娘に覚えてもらったり。ウシをテーマに色んな学びがありました。

娘は、以前からこの話をしていたので、今回のイベントは参加したくないと言っていました。とにかく悲しい、ウシさんとお別れが辛い。以前も大泣きしていました。今回は、読み聞かせのところだけ、自分の部屋に隠れて、聞こえてこない話なのにストーリーを思い出して泣いてました。動物が大好きなので余計に悲しかったようです。

ちぎり絵アート、実際に絵本と同じ原画を頂きちぎり絵ができる。こんな機会は滅多になるものではなく、娘もテンションがあがってました。この作業は、かなり気に入っていて長い時間かけて私より上手に仕上げてくださいました。

思いつきでの提案した企画でしたが、運営の方々の企画力、努力もあり、ステキなイベントになりました。参加できて楽しい一時となりました。またはにわさんに沢山ご協力いただけて感謝の気持ちでいっぱいです。

8歳女子

今回は素晴らしい企画をありがとうございました！

作家の方から直接お話を聞けるのはとても貴重な体験でした。悲しさと強さ、希望が美しい千切り絵と共に表現された素敵な本でした。zoomイベントでの千切り絵作りは家族でとても盛り上がりました。又子供達ももう少し大きくなってから是非読み返したいと思います。その時に反応がどう変わるのかが楽しみです。本当にありがとうございました！

8歳男子、6歳女子、4歳女子

<絵本の感想>

昔は戦争や貧しい生活を通じて「生」や「死」がとても身近なものだったのが、今や飽食の時代になり、スーパーの切り身しか見たことがないような世の中になりました。「食べる」とは他の命を犠牲にして成り立つ行為であること、それによって自分の命を永らえることができるということ。子牛との交流を通じて「命とは何か」という大事なメッセージを受け取りました。もしあの子牛がいなかったら、はにわさんもこの世に生を受けていなかったかもしれないと思うと命の神秘を感じます。

また、動画の中で「愛情には色々な形がある」というのはにわさんの言葉が印象に残りました。万物流転という言葉のとおり、すべてが移り変わっていく。あの子牛はいなくなってしまったけれども、子牛に対する愛情や感謝の念はいつまでも自分の中に存在する。それが自分の人生に関わる一切のもの(万物)に対する愛情をも育むということ、子供や孫に語り継ぐことによって感謝の念が引き継がれ、結果として子牛の命が皆の中で生き続けるということ。このことが死んだものに対して敬意を払い、命を尊ぶということなのだと思います。人生の本質が詰まったお話を絵本にしてくださり心から感謝しています。

<息子の反応>

読み聞かせ会に参加する前に4歳の息子に動画を見せました。現時点での彼の能力の範疇で理解できたかと思ったのと、分からないといつも尋ねてくるので積極的に補足説明しませんでした。静かにお話に聞き入っていました。会の当日お話を聞いたのち感想を求められた際、皆が悲しかったと答える中、息子は「悲しくなかった」と言いました。物語の途中起伏があったものの、最後はハッピーエンドだったことから先述の発言になったようです。どこまで理解したか未知数ですが、今の息子ができる範囲で物語からメッセージを受け取ったものと思います。もう少し年齢が上がったらまた読み聞かせして話し合ってみたいと思っています。

ちぎり絵製作は私自身幼稚園以来でしたが、親子で夢中になって楽しみました。ちぎって貼るという単純な作業には鎮静効果があるようで、無心になれるのが良いですね。世界のどこでも手に入る材料で製作できるというアイデアも素晴らしい。また機会を作ってやってみようと思います。

最後に、このたびはこのような貴重な機会を作ってくださいありがとうございました。ご準備も大変だったかと思います。はにわさん、主催者の皆様に感謝、感謝です！

4歳男子

丑年にちなんだ牛のお話。なんて思っていたら、主人公が子供から大人に、そして家族をもっても続く牛との関係を、時には残酷に、時には温かく、子供がいつも手にする絵本とは少し違う視点のお話でした。息子がどこまで理解できたかわかりませんが、じっと目で追っていた様子から彼なりに感じるものがあったのだと思います。

長野県出身の私は進学のために田舎を離れることが普通であったり、ちぎり絵の味わいのある風景に懐かしさを感じたり、親近感のあるお話でした。

フランスで生活する子供たちに、やわらかいちぎり絵を通して日本の田舎の雰囲気伝わるといいなと思いました。

今回、このような貴重な機会を作ってくださったみなさま、そして作者のはにわさん、本当にありがとうございました。

7歳男子
